

—目次—

1. 研究概要	・・・4
2. 研究目的	・・・5
3. 研究方法	・・・6
4. 研究結果	
1) 2035年の適正な周産期母子医療センター数、MFICUベッド数の試算	・・・7
2) アンケート調査結果	・・・10
3) 周産期医療に関する府県の現状および持続可能にするための工夫	・・・15
① 大阪府下の周産期医療の現状及びこれまでの取り組みについて 木村 正、味村和哉、涌井菜央	・・・17
② 福岡県における母体搬送の円滑化とタスクシフトに関する取り組み 坂井淳彦	・・・26
③ 妊産婦のリスクに応じた分娩体制の維持に要する医療資源に係る研究 一日本産婦人科医会 IT 委員会 埼玉県内実証研究としての取り組み 田丸俊輔、鷹野夏子、亀井良政、平田善康	・・・29
④ 熊本県における周産期医療の現状と取り組み 齋藤文誉、近藤英治	・・・33
⑤ 岐阜県における周産期母子医療センターの配置と機能：現状と最適化について 古井辰郎、磯部真倫、森重健一郎	・・・39
⑥ 三重県の実情と取り組み 高倉 翔、池田智明	・・・47
⑦ 愛媛県の現状と取り組み：10年先を見据えた体制作り 杉山 隆	・・・49
⑧ 岩手県の現状と取り組み 馬場 長、羽場 巖、岩動ちづ子、小山理恵	・・・53
⑨ 青森県における現状と取り組み 横山良仁、田中幹二、伊東麻美	・・・58

5. 考察	．．． 59
6. 提言	．．． 68
7. 謝辞	．．． 70
8. 補足資料	．．． 71